

東京女子医科大学

Tokyo
Women's
Medical
University



看護とは、手と心で
患者さんと触れ合うこと。

『至誠と愛の心で』

日本で27人目の女性医師・吉岡彌生。

1900(明治33)年、東京女子医科大学の前身である

東京女醫學校を創立した彌生が、

生涯座右の銘とし、患者に接する際に実践していた信念——至誠と愛。

「きわめて誠実であること」と「慈しむ心」は、

東京女子医科大学の教育・研究・臨床のすべての基盤となる理念です。

建学から1世紀以上の時を経た今も、

ここで学ぶもの、働くものは、この理念に従って活動しています。

創立者
吉岡 彌生 Yayoi Yoshioka

理事長・学長メッセージ

一人の力は小さくとも、 $1+1+1=\infty$ (無限大)の力になるよう
『協働できる間柄を築く』ことのできる仲間を待っています。

理事長 岩本 絹子

学校法人 東京女子医科大学の理念は「至誠と愛」です。至誠とは、きわめて誠実であること、愛とは、慈しむ心、大切におもう心です。みなさんには、この理念を理解するだけでなく、是非自分の信念としてほしいと思います。わたしは、皆さんに社会人・医療人として、社会に貢献する、経営的感覚を持ち組織に寄与する、情熱をもって知識と技術の研鑽に励む、社会に関心を持つことを期待します。一人の看護職、医療人としての力は小さいと思うかもしれませんが。しかしその一人ひとりの力の積み重ねが、組織のより大きな発展に繋がっていくのです。現在、医療の現場ではチーム医療が求められています。チーム医療とは、単にいろんな職種の人が集まることだけで最善の医療ができるわけではありません。私たちはお互いに異なる価値基準を持って生きています。育ってきた環境、興味関心などに影響されて、人それぞれ価値基準が違うことを理解したうえで相手の価値観を尊重すること、相手の考えを聞いて自分の考えを伝えること、お互いの考えを組み合わせることが大切です。患者・医師・看護職・技師・事務担当者そして患者のご家族が一つのチームとして『協働できる間柄を築く』ことが大切です。これが実行できたとき、 $1+1+1=\infty$ 無限大の力となります。この「1」となる、仲間と出会えるのを待っています。



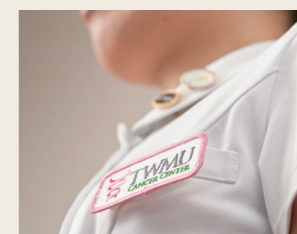
120年継承され続けてきた建学の精神と理念のもと
本学は、常に次世代を指向しながら進化しています。

学長 丸 義朗

1900年に創立された歴史ある東京女子医科大学の理念は「至誠と愛」であり、建学の精神は「医学の蘊奥を究め兼ねて人格を陶冶し社会に貢献する女性医人を育成する。」です。ゲノム解析、AIの介入、疾患モデル動物学の進歩などによって、医学は目覚ましい発展の途上にあります。どのような時代がきても、その進歩した医学に応じることができなければ医療人としての天職を全うすることはできません。

本学は特色ある多様な医療施設と複数の研究施設を持ちます。これらの施設で実践されている先進医療と先端研究は、学部教育だけでなく卒後研修あるいは大学院教育の場としても活用され、高度医療の提供や医学を創造する研究を通して社会貢献しています。

建学の精神と理念は、創立120年以上の本学の歴史で変わりませんが、常に最良の教育・研究・医療を行うために継承され続けることが本学の姿です。本学は次世代を指向しながら進化しています。皆さんと一緒に、働きやすい職場、学びやすい学校、各人が自分の力を発揮できる風土、このような環境を作っていきましょう。



東京女子医科大学関連病院

東京女子医科大学病院

明治33年の吉岡彌生による学校創立以来120年を超える歴史を持ち、「至誠と愛」を基本理念に日本の医療を牽引する役割を果たしています。



- 所在地 / 〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1
- 許可病床数 / 1,193床(一般1,147床、精神46床)
- 職員数 / 医師859名、看護師1,195名、その他687名、合計2,741名
- 診療科 / 血液内科、神経精神科、小児科、小児外科、整形外科、形成外科、皮膚科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線腫瘍科、画像診断・核医学科、麻酔科・ペインクリニック、歯科口腔外科、総合診療科、リハビリテーション科、病理診断科、化学療法・緩和ケア科、睡眠科、集中治療科、循環器内科、心臓血管外科、循環器小児科、消化器内科、消化器一般外科、消化器内視鏡科、脳神経内科、脳神経外科、腎臓内科、泌尿器科、腎臓小児科、血液浄化療法科、糖尿病・代謝内科、糖尿病眼科、高血圧・内分泌内科、内分泌外科、乳癌外科、内分泌外科、呼吸器内科、呼吸器外科、膠原病リウマチ内科、整形外科(リウマチ)、小児リウマチ科、ゲノム診療科、女性科、黄斑疾患総合ケアユニット、前立腺腫瘍センター、女性排尿障害センター、炎症性腸疾患センター、母子総合医療センター、産科・母子センター、新生児科、救命救急センター
- 機能 / 救急告示病院、臨床研修指定病院、臨床研修指定病院、災害拠点病院、エイズ治療拠点病院、神経難病医療拠点病院、移植認定施設(心臓・小児心臓・腎臓・脾臓・肝臓・骨髄・末梢血幹細胞)、公害医療機関、治験拠点医療機関、肝臓専門医療機関、総合周産期母子医療センター、東京都脳卒中急性期医療機関、東京DMAT指定病院、東京都難病診療連携拠点病院、肝がん・重症肝硬変治療研究促進事業指定医療機関、東京都アレルギー疾患医療専門病院
- 看護体制 / 7対1看護、変則2交替勤務、モジュール型プライマリナースング

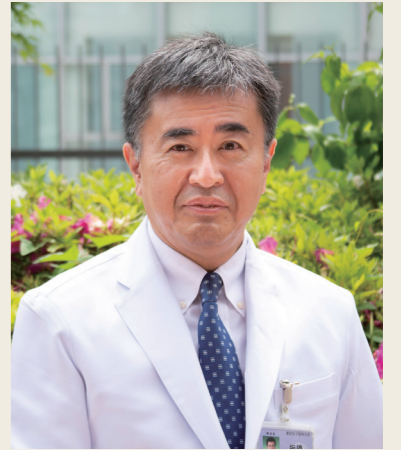


病院長メッセージ

『至誠と愛』を実践し「いい病院」を皆で作りませんか。

板橋 道朗

東京女子医科大学の基盤となる理念は、「至誠と愛」です。『至誠と愛』を実践して、患者さんに優しい最善の医療を全職員が一丸となって提供しています。当院には約50の診療科があり、最新のカテーテル治療や内視鏡治療のほか、手術件数は年間約10,000件、ロボット支援手術件数も年間約600例、腹腔鏡手術などの低侵襲手術症例数も豊富で国内でも有数な高度医療を提供しています。また、さまざまな病気を抱えた患者さんが安心して受診していただき、病院を出る時には希望をもって、笑顔で帰宅いただけるような「いい病院」を作るべく職員一丸となり昼夜努力しています。『至誠と愛』を実践し「いい病院」を作る新しい仲間を募集しています。



足立医療センター

東京都北東部の基幹病院として開設されました。2022年1月に東京都荒川区から足立区に移転し真新しい病院となります。地域密着型の大学病院です。



- 所在地 / 〒123-0872 東京都足立区江北4-33-1
- 許可病床数 / 450床
- 職員数 / 医師247名、看護師501名、その他239名、合計987名
- 診療科 / 内科、精神科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、乳癌診療部、眼科、耳鼻咽喉科、救急医療科、麻酔科(ペインクリニック)、放射線科、歯科口腔外科、リハビリテーション部、血液浄化部、周産期新生児診療部、新生児科、骨盤底機能再建診療部
- 機能 / 地域医療支援病院、救急告示医療機関、救命救急センター、東京都指定三次救急医療機関、地域がん診療病院、東京都肝臓専門医療機関、東京都脳卒中急性期医療機関、臨床研修指定病院、臨床研修指定病院、地域災害拠点中核病院、総合周産期母子医療センター、東京DMAT指定病院、東京都難病医療協力病院、がんゲノム医療連携病院
- 看護体制 / 7対1看護、変則2交替勤務、固定チームナースング



病院長メッセージ

足立医療センターで磨くスキルに膨らむ期待。

内湯 安子

卒後どこに就職しようかと、ワクワク感とドキドキの方も、もう1回新しい職場を探してみたいという方もおられるでしょう。私は、あなたの能力を最大限に伸ばしてくれる病院をお勧めします。誰も自分の能力をよく知りません。しかし、あなたにすばらしいナースパワーがあることは、あなたの上司になる者は見抜くことができます。足立医療センターは、そんな上司に出会える病院です。大学病院機能と地域に密着した機能の両面をもつ機動力あふれた足立医療センターは2022年1月に新しい機器完備の真新しい病院になりました。皆さんを待っています。



八千代医療センター

千葉県唯一の小児救急センターや、総合周産期母子医療センター、救命救急センター、SCU、がんセンターなどを備え、出生～高齢者まで幅広くケアを行います。地域と密接な連携により、地域完結型医療を目指します。



- 所在地 / 〒276-8524 千葉県八千代市大和田新田477番96
- 許可病床数 / 501床
- 職員数 / 医師208名、看護師536名、その他422名、合計1,166名
- 診療科 / 血液内科、糖尿病・内分泌代謝内科、呼吸器内科、腎臓内科、循環器内科、消化器内科、神経内科、リウマチ・膠原病内科、消化器外科、乳癌・内分泌外科(女性科外来)、呼吸器外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、眼科、小児眼科、耳鼻咽喉科・小児耳鼻咽喉科、泌尿器科、歯科口腔外科、皮膚科、小児科、神経小児科、新生児科、小児外科、小児救急科、母体胎児科、婦人科、小児集中治療科、麻酔科・産科麻酔科・小児麻酔科、救急科、放射線科(画像診断・IVR科)、内視鏡科、化学療法科、病理診断科、神経精神科・心身医療科、集中治療科、リハビリテーション科、緩和ケア内科
- 機能 / 救命救急センター、DMAT指定医療機関、臨床研修指定病院、地域災害拠点病院(地域災害医療センター)、地域医療支援病院、千葉県小児医療連携拠点病院、総合周産期母子医療センター、千葉県がん診療連携協力病院、肝疾患専門医療機関、日本臓器移植ネットワーク腎臓移植施設
- 看護体制 / 7対1看護、変則2交替勤務、固定チームナースング



病院長メッセージ

一人ひとりの個性を大切に、エキスパートを育成。

新井田 達雄

八千代市の要望を受け2006年12月に開院して以来、心温まる医療と急性期・高度先進医療との調和を目指し、地域の中核病院として診療所や病院との連携を推進してきました。今後ますます増える虚血性心疾患、脳血管障害、悪性新生物、糖尿病や精神疾患などの高度急性期成人医療から小児周産期医療までもカバーする千葉県の拠点病院としての役割も担っていきます。大学病院・高度急性期病院であっても、一人ひとりの個性を大切にしながら、皆さんが看護職としての第一歩をしっかりと踏み出し、エキスパートとしての長いキャリアで研鑽を積めるよう、教育体制と職場環境を整え、皆さんをお待ちしています。



東京女子医科大学が目指す看護とは。

「至誠と愛」の精神のもとに、高度・先進医療を提供する医療機関にふさわしい人間性と能力を身につけ、患者さんに満足される看護を提供する。

方針

1. 患者さんに安全、安心、安楽な看護を提供する。
2. 高度・先進医療を受ける患者さんにふさわしい看護を提供する。
3. 温かく心から頼れる看護師になるために日々研鑽につとめる。
4. 他部門と協働して目的を達成する。

看護部からのメッセージ

ご挨拶

一人ひとりの個性を大切に、強みを見つけてともに学び合い成長していきましょう。



足立医療センター
看護部長 木所 篤子

東京女子医科大学病院
看護部長 近藤 芳子

八千代医療センター
看護部長 川崎 敬子

東京女子医科大学の理念は「至誠と愛」。それは、どんな時も誠実に、人を慈しむ心を忘れず、全ての患者さんに対して、親や兄弟姉妹、友人など自分の大切な人だったら、こうしてあげたいと思う看護を実践することではないでしょうか。医療がどんなに高度化・複雑化しても、人の手と心に勝るケアはありません。本学では、医療のどんなステージにおいても、患者さんの個性を重視し、尊厳を守りながら、安全で安心できる医療・看護を提供していきたいと考えています。患者さんは、多様な背景を持つ一人の生活者です。病気を治療することのみに着目せず、生活者としての暮らしを継続できるようにすることが、私たちの使命でもあります。それを実現するには、看護職であると同時に一人の人として、様々な経験を積み重ね、豊かな人間性を身につけ、人として成長していくことが大切だと思います。私たちは「みんながってみんないい」という姿勢を大切にしています。看護職一人ひとりにも個性があり、歩んできた過程も、なりたいた看護師像も違うでしょう。患者さんの命と暮らしを守るという、目指すところは同じでも、そこに到達する道のりはそれぞれだと思います。どんな進み方でも、こういう看護がしたいという思いを実現できるようサポートしていきます。一緒に学び合い歩んでいきましょう。

看護部の特徴

ここでしかできない経験と学びがあります。

本学では、日本看護協会のラダーに基づいて、看護職員一人ひとりの段階を確認しています。基準に沿った評価により、自身のキャリアラダーを客観的に確認することができます。女子医大独自の取り組みとして、年度末に事例レポートを用いて師長とナラティブに自分自身の看護を深く掘り下げています。評価だけでなく、自身の強みや成長の歩みを確認し、次年度の目標に繋がります。今と将来と一緒にみながら、キャリアを育てていくのが女子医大です。

人間力を育みながら、全人的ヒューマンケアの担い手を育てます。

全人的ヒューマンケアを実践していく、それが私たちの目指す看護です。患者さんを身体面のみならず、精神面、社会面、スピリチュアルな面を含め、生活者として、全人的に捉えていくことが欠かせません。

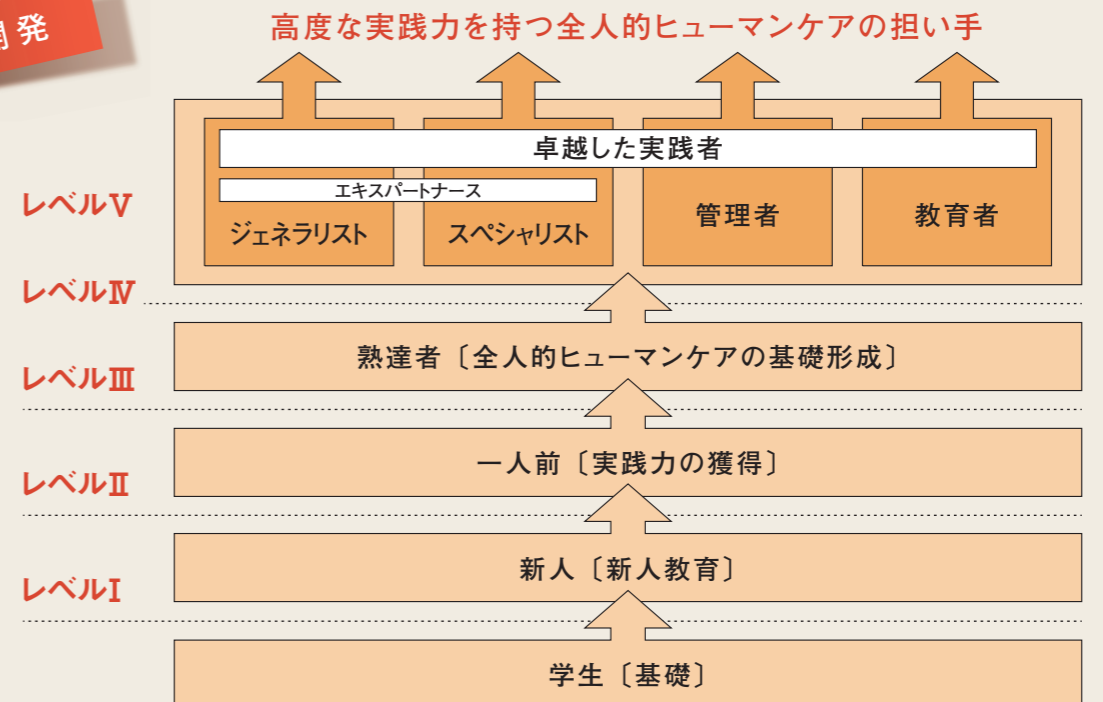
看護力は、知識技術だけでなく、人としての力がとても大切です。

多様性の高い風土で、お互いの価値観に触れ、人間力を高めながら、看護職として、人として、成長できるのが女子医大です。



キャリア開発

キャリアラダー×ナラティブによる評価
1年ごとに自分自身の段階を確認しながら成長



キャリア開発展期

10年

キャリア基礎形成期

ナラティブとは？

東京女子医科大学では、キャリアラダーとナラティブの組み合わせによる実践力の確認を年度末に行っています。ナラティブとは、看護の実践を語る行為のことです。実践者が看護の実践を言葉にして語ることで、面談者はその思考、意図を見出します。面談者は気づいたことを更に問いつけ実践者は強みを知ります。そういった語りを通して個々の強みを知り、認識し、看護職としての実践力を高めながら全人的ヒューマンケアの担い手を目指します。

基礎から専門へ、自分らしく学べる選択制。 女子医大ならではの自慢のカリキュラム。

教育カリキュラムには定評がある女子医大。ラダーレベルに沿った研修で、自分に合った成長ができます。女子医大だからこぞ持っている資源を活用し、現場での実践に活かせるよう、院内研修・現場での学び・看護専門領域スキルアップ研修は「つながる/つなげる」プログラムになっています。個人の目標に合わせて選べる、多彩なメニューが自慢です。

継続教育

キャリアラダーに則って目標を設定し、それを達成するための役割・看護技術研修などを設けています。レベル別のさまざまな研修を通して、無理なく自己成長ができます。

現場の看護を振り返り、やりたい看護を明確化する気づきの場

現場から離れて看護職に必要な知識・技術・態度を学び合います。講義を聴くだけの研修ではなく、現場での実践と結びつけながら学び、研修後に現場で活かすことを何よりも大切にしています。キャリアラダーに基づいて、自身の関心に沿って学べます。様々な部署から集まり、いつもとは違った考え方に触れることもできます。振り返り、語り合うことで、明日からの実践に活かすヒントが沢山見つかります。

- 〈院内教育研修〉
- 看護基礎研修 ●看護倫理
 - 看護研究 ●問題解決
 - リーダーシップ ●キャリアセミナー 等

各病院の院内教育研修の詳細はコチラから

東京女子医科大学病院



足立医療センター



八千代医療センター



支援者と共に、看護実践を積み重ね、育み合う

私たち看護職は、目の前の患者さんや家族、医療従事者との関わりを通じて、日々たくさんの経験をしています。女子医大では、すべての部署に教育担当者を配置していることはもちろん、スタッフ全員がともに学び合うという意識を持ち、よりよい看護を提供するための話し合いや日々の看護の振り返りを行っています。一人ひとりの成長に寄り添い、看護への気づき・学びを得られる手厚い支援が女子医大の現場での教育の魅力です。



現場でのかけがえのない経験を、あなたの成長につなげる機会をつくりたい!

河合 麻衣子 (東京女子医科大学病院看護部) 教育担当

私たちが研修を企画するうえで大切にしていることは、「現場での経験」とつなげること。女子医大には、「【現場での経験】と【経験についての振り返り】を繰り返すことで成長できる仕組み」があり、「すべての部署に、研修について相談できる先輩」がいます。「わたしが学校で学んだことは、そういうことだったのか〜!」という腑に落ちる学びは、「明日から、現場でもやってみよう!」という自分の内側から湧き出る気持ちにつながります。女子医大には、経験年数や立場に関わらず、お互いの経験や問いかけから学び合える仲間がいます。部署の先輩や、私たち研修担当者も、あなたと共に学ぶ仲間です。一緒に看護を語り、一緒に考えていきましょう!

仲間との交流で
看護が広がる・深まる

院内 教育研修

「もっと知りたい」を
スペシャリストと共に学ぶ

看護 専門領域 スキルアップ 研修

患者さんとの
看護実践を通した
現場での
学び

興味に合わせて選べる、領域に特化した専門性を高める研修

各施設に在籍するさまざまな専門領域のエキスパートナースや専門看護師、認定看護師が企画運営しています。看護スペシャリストによる洗練された研修は、高度医療を担う本学の看護職に必要な専門性の高い研修で、継続して学び続ける必要がある充実した内容のものばかりです。看護職が高度医療を担う現場で自信をもって活躍できるよう、スキルアップできる場を整えていきたいと運営側も日々取り組んでいます。

〈スキルアップ研修〉

- がん看護～がん疼痛マネジメント 痛みを読み解く技を学ぼう
- 災害看護～入門編・基礎編・応用編
- 循環器看護～心電図モニタ講座 ベーシック・アドバンス
- 新生児看護～新生児のフィジカルアセスメント
- 家族看護～家族看護を学ぼう～基礎編

患者に合わせた心不全指導と心不全緩和ケア看護専門領域スキルアップ研修は年間16領域59会開催(オンラインやYouTubeでも開催しています)



3施設合同研修(助産師、NICU/GCU、小児、救命、手術室領域で開催)

助産師としての成長をサポート。

3施設合同助産師研修では、入職3年目を対象にローリスクからハイリスクまでケアできる助産師育成、助産師のモチベーション維持を目的とした研修を行っています。ハイリスク疾患合併妊婦の看護、産科救急時の対応、ケアリングなどの勉強会を行い、3施設の特徴も知ることができます。施設間の異動も可能なので、自分に合った施設での経験を通して、キャリアパスを描くことができます。他にもNICU/GCU、小児、救命、手術室領域でも合同研修を開催しています。



合同研修で身につけた知識や技術を現場で活かしています。

周産期母子医療センターの助産師として、必要な知識やコミュニケーション技術を身につけ、スキルアップできるような研修があり、日々の助産ケアに活かすことができている。また、助産師同士の交流では、日々の体験を共有することで、頑張る力につながっています。今後もさまざまな妊産婦さんの想いに寄り添える助産師として、自分自身の知識、技術、人間性を向上させていきたいです。



助産師 (足立医療センター) 産科勤務
中島 左絵

語りから看護を振り返り 「また明日から頑張ろう!」と思える学びの場です。

看護師 田中 優子 (八千代医療センター) 循環器病棟勤務

日常での学びは盛り沢山で、普段はなかなか落ち着いて振り返る余裕がもてません。院内研修に参加すると頭の中や心を整理して看護を考える機会になり、無意識に行っている看護をリフレクションすることによって「自分の良さってそこなんだ!」と私の強みや大事にしている看護に気づかせてもらえます。自分を振り返り語ることで内省が深まり、そこに他者の価値観も組み合わせると、更に看護が広がります。「また明日から頑張ろう!」そう思える学びの場です。



マンツーマンのプリセプターシップと 集合教育の両輪で、着実に成長できる1年間。

気さくで温かい、笑顔が多い職場 — これが女子医大のカラー。

入職後3か月間は担当プリセプターが行動をともにし、日常の業務に必要なスキルをマンツーマン指導。プリセプターはもっとも身近な先輩として、心身面で支えとなってくれる存在です。悩みや喜びを共感し合いながら、チームの一員として成長していける環境です。

新人教育



プリセプター

田中 紀子 (東京女子医科大学病院)
循環器外科病棟勤務

新人看護師

氏家 榛菜 (東京女子医科大学病院)
循環器外科病棟勤務

チームナース

曲澤 峻樹 (東京女子医科大学病院)
循環器外科病棟勤務

新人看護師に聞く Q&A

Q. つかったことを
どうやって乗り越えましたか？

A. 気持ちに余裕がなくなって、自分が思い描いていた「患者さんに優しく寄り添える看護師」にどうしてもなれず自信が無くなったとき、先輩に泣きついて相談しました。ある先輩は真剣に話を聞いてくれ、自分の事のように私の気持ちに共感してくれました。また別の先輩からは「優しさは心掛け。ちょっとした意識で優しく出来る」と教わったんです。そういう看護師になりたいと思える先輩たちがここにはいます。ここは私が人として、看護師として成長出来る居場所です。

Q. 勉強はどんな風に
どれぐらいしていますか？

A. 家に帰ると疲れて勉強がなかなかできません。でも2年目の先輩主体で、受け持っている患者の疾患や解剖生理、退院指導に向けての勉強会を毎月開いてくれて、実践に則した勉強ができています。また、患者さんの様子が「なにかおかしい」と思った時は、すぐに先輩に相談し、呼吸音や心電図モニターの波形と一緒に確認することもあります。その後、休憩時間を利用して調べる事で観察項目の引き出しを増やしています。

Q. どんな時にやりがいを感じますか？

A. 緊急手術で気管切開をして、自宅に帰ることも難しい状況の患者さんをプライマリーで受け持ちました。チーム医療の末、急性期の治療を経て、リハビリ病院への転院も決まりました。普段はスピーチカニューレで話すことは患者さんにとって大変な苦痛であるにも関わらず、転院前の最後の日に、ちゃんと自分の声で話したいと言われ、「あなたが一番好きな看護師です。あなたはあったかい手をしているね」と話してくれたんです。私が目指している看護師像に近づけたかなと嬉しかったです。

新人看護師の1年間

女子医大では、新人を支えるのではなく、協働をしています。

「共に学び、共に考え、共に成長」しながら、全人的ヒューマンケアの担い手として基礎を学びます。

3か月間はプリセプターや熟達者と行動しながらチームの一員として看護をします。

不安なこと・聞きたいことを相談しやすい環境づくりをしています。

入職後1か月間

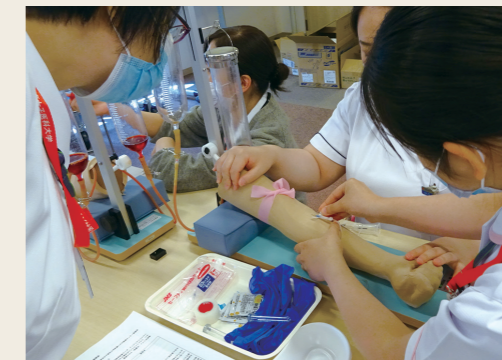
1か月間の熟達者へのシャドウイング

1年目看護職員が熟達者と共に行動し協働して看護実践をします。熟達者と協働することで論理的な看護実践や患者さんとの関わりを教わったり、感じたりできます。同時に、安心してチームの一員として参画することで病棟の看護の特徴を掴めます。「自分も仲間の一人なんだ」と徐々に実感できる1か月間です。



入職後3か月間 (プリセプターシップ)

入職後4か月〜 チームでの支援



3 か 月 ル ー ル



入職3ヶ月間は看護職員として、社会人として、まずは環境に慣れるために生活を確立するための大切な期間として残業なし・課題なしで過ごします。自分自身が健康であることが、患者を安全にケアすることに繋がります。まずは看護観を育むために、看護する喜びを感じるための期間です。

新人看護職員研修

年に3-4回研修があり、1年を通して看護観や社会人・職業人としての姿勢を考え、同期と共に学び合える研修です。身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面で患者さんを全人的に捉え、グループメンバーとの共有で視野が広がり、深まります。学びを看護実践にどのように活かすかまでを研修で考え、明日からの看護実践に繋がります。

毎回お互いの成長を振り返る時間を設けており、自身の強みや成長を実感でき、自信や看護観の気づきに繋がっています。

「ここにいていいんだ」そう感じてもらえるように、相互支援を。

「クリニカルコーチだから教える」「新人看護職だから教わる」一見そう考えがちですが、私はそこに違和感がありました。なぜなら、経験年数関係なく同志だと思っているからです。たとえば、新人看護職が患者目録の情報収集をし、純粹に寄り添った看護をしようと一生懸命考えているのがわかると、私は初心に戻ります。またその意見を小チームカンファレンスの時にチームで共有し、看護に活かすようにすると相互支援になります。師長・主任と協働し、個々がやりたい看護ができるように安心感をもって、「ここに居場所がある」そう感じて貰えるように関わりながら共に成長していきたいと思っています。

クリニカルコーチ

河崎 恵
(東京女子医科大学病院)
循環器内科病棟勤務

全体をサポートする クリニカルコーチ

クリニカルコーチの役割

熟練した看護実践力と自己研鑽を重ね順調にキャリア形成している看護師を「クリニカルコーチ」として育成しています。現在51名のクリニカルコーチが新人教育をはじめ、看護職全体へのキャリア発展に必要な支援を主任、師長と協力しています。

看護のエキスパートとしての誇りを胸に、 院内院外で活躍する先輩たち。

キャリアを重ねる中で、自らの専門分野における知識・技術を追求し、指導や研究に取り組んでいく人に対し、日本看護協会による「専門看護師」「認定看護師」に加え、女子医大独自のシステムとして「エキスパートナース」を設けています。それぞれの道を選び、自分らしく輝いている先輩をご紹介します。



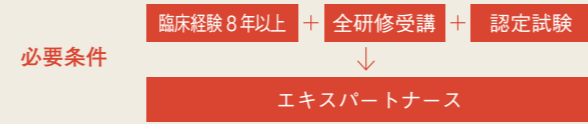
エキスパートナース

榎原 亮 (東京女子医科大学病院)
循環器外科病棟勤務
補助人工心臓看護エキスパートナース / 人工心臓管理技術認定士

自分の専門性を高め、
辛い思いをする患者さんや家族が
日常に帰り、安全に生活ができるよう支援したい。

今まで重症心不全は長い入院生活を強いられてきましたが、補助人工心臓(以下VAD)によって家に帰ることを実現できます。患者さんや家族の計り知れない苦しさ・辛さを受け止めて力になりたいと感じ、この道に進みました。人工心臓管理技術認定士の資格取得後、もっと部署を超えて活動したいと先輩に相談。エキスパートナース試験に令和1年に合格しました。VADを入れた患者さんは長期間自己管理が必要になります。その人の傾向を予測して個別性ある在宅指導をすることで、安全により質の高い自宅での生活できようサポートをしたいです。「好きだからこそ専門性が高くなる」昔一緒に働いていた医師のことばです。自分の分野で認められ活動ができるエキスパートナース制度を利用して、今後も使命と責任を果たしていきたいと感じています。

臨床経験8年以上の実績を持ち、選考試験に合格したナースに与えられる当院独自の称号です。エキスパートナースであることを示す金バッジと月3万円の手当が支給されます。看護のロールモデルとして専門分野のコンサルテーションなどを行います。



活動分野

循環器看護* (重症心不全・補助人工心臓看護)	心臓移植が必要な末期重症心不全患者とその家族に対するVAD装着に関する看護、指導を行います。	救急看護	救命・救急の対処法、AED/BLSの指導・教育。院内の呼吸器装着患者に関する相談、指導を行います。	糖尿病看護	糖尿病患者の生活に合わせたセルフケアの確立を患者、家族と共に考えます。
HIV・エイズ看護*	HIV感染症の患者自らが、健康管理を徹底した生活を送れるよう支援します。	がん放射線看護	患者が治療を完遂し、有害事象を低減できるよう治療の初期反応・治療継続への患者の姿勢・副作用の認知や生活の再構築などを支援しています。	クリティカルケア看護	生命の危機にある患者およびその家族のケアや、倫理調整の支援を行います。
エンドオブライフケア*	患者さんの大事にしていることを知り、理解し、その人らしく生き生きすることを支援しています。	慢性呼吸器疾患看護	「呼吸ケア質の向上プロジェクト」や「呼吸ケアサポートチーム」など、多職種と連携しながら院内の呼吸ケア看護の質向上に注力しています。	手術看護	術前・術中・術後に関する相談・指導を行います。
メンタルヘルス*	看護師が心の健康状態を保ち、生き生きできるように支援します。	皮膚・排泄ケア	創傷・ストーマ・失禁に関する患者やご家族の方々へのケアを行います。	感染管理	全医療スタッフが感染防止技術を習得し、実践するための支援を行います。
小児看護	子どもの権利を尊重し、発達段階に応じた看護と、子ども自身が病気に向き合えるような家族支援を行います。	がん看護	外来、入院患者問わず、がん疾患患者の緩和ケアに関する相談・指導を行います。	遺伝看護	遺伝子疾患をもつ患者や家族への遺伝カウンセリングを行い、心理的、社会的支援を行います。
がん性疼痛看護	痛みを適切に判断し、個別にあった看護ケアを提供できるように支援しています。			リエゾン精神看護	患者だけでなく看護師も含め、メンタルヘルスの安定を維持・促進します。

*は専門・認定看護師領域にはない女子医大独自の領域です。

相手の特徴や背景を捉えて関わること。

感染症に繰り返し罹り辛い思いをしている易感染宿主の患者さんとの出会いがあり、感染症看護専門看護師を目指しました。私が感染症看護を実践するうえで大事にしていることは、「相手の特徴や背景を捉えて関わること」です。まずは相手がどういう人なのかを知り、コミュニケーションをとって信頼関係を築き、感染予防策を継続することができるように関わることです。私自身、現在に至るまで様々な経験をしてきましたが、女子医大は「相手のためにもっとどうしたらいいか」を考える看護やチーム医療の風土があると感じます。本学は臓器移植認定施設でもあり、患者自身も感染に対する意識が高い特性があります。その環境の中で多職種と問題提起する場をより多く設け、感染症に対する医療・看護の質の向上にも努めていきたいと思っています。



専門看護師

原 光寛 (東京女子医科大学病院)
総合感染症・感染制御部
感染症看護専門看護師



認定看護師

田中 景子 (八千代医療センター)
外来勤務
糖尿病看護認定看護師

「患者さんを生活者としてみる」
制限を強いられる患者さんが
どうしていききたいか近くで一緒に考えたい。

前職で糖尿病療養指導士の資格を取得後、もっと自分の看護の根拠を持ちたいと感じ、認定看護師の資格を取得しました。八千代医療センターに入職してから、まずは当院の使命と役割を知るべきと思い病棟勤務を希望。1年経過したところで師長から何がやりたいか問われ、「糖尿病看護外来」と答え今に至ります。糖尿病支援外来やフットケア外来、糖尿病教室、多職種連携での調整なども行っています。外来で患者さんと関わる時に大切にしていることは、相手をニュートラルにみることに。糖尿病患者である前に、ひとりの生活者として、どんな生活を送り、何に困っているか時間をかけて聞き取ります。ひとりひとりの患者さんが自己管理できるようサポートをしたいし、それができる環境・風土に感謝しています。糖尿病看護は本当に楽しい!後輩育成にも注力し、育てていくのも今後の目標です。

認定看護管理者・専門看護師・認定看護師・エキスパートナース・診療看護師(NP)・特定行為研修修了の人数と領域

【認定看護管理者】…5名	母性看護…1名	慢性呼吸器疾患看護…4名	がん性疼痛看護…5名	遺伝看護…1名
【専門看護師】	感染症看護…1名	手術看護…4名	がん化学療法看護…4名	VAD看護…2名
慢性疾患看護…1名	在宅看護…2名	新生児集中ケア…7名	がん放射線治療看護…1名	エンドオブライフケア…1名
老年看護…2名		小児救急看護…3名	認知症看護…1名	メンタルヘルス…1名
家族支援看護…1名	【認定看護師】	糖尿病看護…3名	接触嚥下障害看護…1名	排尿ケア…1名
急性・重症患者看護…8名	救急看護…4名	透析看護…3名	感染管理…6名	診療看護師(NP)…13名
精神看護…3名	集中ケア…5名	皮膚・排泄ケア…7名	クリティカルケア看護…1名	特定行為研修修了者…3名
小児看護…5名	慢性心不全看護…3名	緩和ケア…4名		
がん看護…3名	脳卒中 リハビリテーション看護…4名	乳がん看護…2名	【エキスパートナース】	
			HIV/AIDS看護…1名	

Expert Nurse



女子医大のエキスパートナース(EN)は認定看護師に先駆けて生まれた本学独自の制度。看護部長の直属となるため、部署を越えて活動を行う専門看護師・認定看護師の多くは両方の資格を有しています。ENは専門看護師・認定看護師の資格を持っていなくても、独自の専門分野で資格を取得できます。令和3年度は、3病院でEN31名が活躍中。女子医大では看護学部と連携を図り、キャリア開発支援体制のシステム作りにも参画しています。

自分らしさを活かしてさまざまなチャレンジを。 女子医大は、個々の活動を応援・サポートしています。

女子医大では全国各地から入職者を迎えます。毎年数十名が帰郷のため退職しています。進学、結婚、出産、夫の転勤など、事情はそれぞれ違っても、やめた人が生涯どこかで看護職として働き続け、キャリアを重ねていくことが私たちの願い。女子医大ではさまざまなチャレンジを応援し、また看護職のキャリア開発と勤務継続を目的にさまざまな支援活動を行っています。かけがえのない人生のキャリアにおいて、最初の職場選びは重要—女子医大なら必ず“何か”をつかむことができるはず。



その人にとって、その人らしい選択を。
イキイキと看護職の道が続けるために。

女子医大では、2009年にキャリア開発支援部門が発足され、キャリアカウンセリングとメンタルヘルスカウンセリングを行っています。具体的な相談はもちろん、漠然とした悩みもOK。カウンセリングは守秘義務を守り、マンツーマンで行います。カウンセリングの目的は自己理解と自己決定の手助け。答えは誰かに与えられるのではなく、自分で見つけるもの。それが自信になり、次の一歩を踏み出す力になります。

〔詳しくは下記で〕
看護職キャリア開発支援部門 ▶ <http://www.twmu.ac.jp/Ns-career/>

カウンセリングでは、相手が何を言いたいのかを聴くのに注力しています。話を聴いているうちに「自分が何を大事にしている、何を目標しているのか、どうしたいのか」輪郭が見えてきます。その人にとってその人らしいものを選択すること、そして、その人が看護職としてイキイキ働けることを目標にしています。

（八千代医療センター）
看護部
山内 典子 精神看護専門看護師／精神看護エキスパートナース

心理面をサポート

キャリアカウンセリング

仲間という温かい気持ちと
全てのスタッフが持っているところが強みです。

平成21年に男性看護師の増員と定着を図るために発足された会です。男性看護師ならではの不安や悩み、葛藤を分かち合い、相談できる場です。専門看護師や認定看護師、エキスパートナース、管理職スタッフなどスペシャリストも多く、今後のキャリアを考えたり、勉強会を開催して看護のスキル・倫理観を養える会となっています。

会の中で新入職員フォローという時間も設けていて、近況を確認して先輩からアドバイスをしています。先輩後輩分け隔てなく温かい雰囲気だから、聞きやすい・相談しやすい雰囲気です。全スタッフが仲間だからこそ、縦と横のつながりを大事にしたい。相談できる場がある、だから続けられる。つながっていること自体が大切な価値なんです。

浅井 智文 〈東京女子医科大学病院〉消化器外科病棟勤務

男性も働きやすい場所

メールナースの会 male nurse



TOPICS

チャレンジを応援する独自の取り組み
〈活動・カウンセリング・研修〉

仕事を続けるためのサポート

〈進学・留学・育児・介護〉



チームワークある風土の中で
育児と仕事を両立しています！

現在、1児の子育てをしながら短時間勤務で、病棟で働いています。復職時に短時間勤務をしていた看護師に相談し、制度を使うことを決めました。週4日24時間の勤務をしており、仕事の時間と家族の時間をそれぞれ大切にできていますし、それによって両方をイキイキ行えているように感じます。現在は病棟に5人短時間勤務制度を使っている人がいます。ロールモデルが多いこと、制度を使える風土・チームワークがあることは支えになっています。落ち着いてきたら夜勤もはじめて病棟の力に恩返ししたいです。

鈴木 未歩
〈足立医療センター〉脳神経外科病棟勤務

ワーキングママ&パパを応援する本



進学などで経験を積みたい

休職制度

ライフステージに合わせて働きたい

キャリアアップ

ライフステージに合わせて選べ、
視野が広がる環境です。

論理的に根拠と自信をもって小児看護を実践している実感が欲しいと思い始めた頃、師長に強く背中を押され、休職制度を利用し大学院に進学。小児看護専門看護師の資格を取得しました。その後1児の母となり時短勤務で働いています。CNSとして育児しながら働くことはとても大変ですが、すごく楽しいです！ライフステージに合わせて相談でき、制度を使って働き続けられる環境があり、色々乗り越えるたびに広がっていく視野に気づきます。今後は、診療科を超えて小児のサポートをしていきたいと考えています。

高木 志帆
〈東京女子医科大学病院〉
小児病棟勤務 小児看護専門看護師



育児と仕事を両立したい

短時間就労支援制度

年間1万件を超える手術数。専門性の高い医療を提供しており、貴重な経験と学びにつながります。

TOKYO WOMEN'S
MEDICAL UNIVERSITY



東京女子医科大学病院

1908(明治41)年、東京女子医学校附属病院として開設。全国から重症・難治疾患の患者さんを受け入れ、専門性の高い先端医療を提供しています。診療科や職種を超えてつながる大規模なチーム医療をはじめ、ここでしかできない経験と学びを求め、医師や医療専門職スタッフが全国から集まっています。

大学病院の特徴

高度先端医療

臓器移植

臨床・研究・教育



ICUで呼吸器を装着した患者への立位訓練



「da Vinci」を使用した手術



消化器内視鏡科の治療



ICUでのカンファレンス

最先端医療

命を救い、次の治療へと確実につなぐ先鋭のチームと最新設備の総合力。

当院は5つの臓器移植施設として認定されています。特に心臓移植、小児部門の移植手術は、限られた施設でしか実施できない難易度の高い手術であり、高度なチーム医療が必要です。つまり、当院にはそれだけ高水準のチーム医療があると認められているということ。看護部でも、ドナーの情報がいつ来ても対応できるよう、常に体制を整えています。現在、腎臓移植においては日本で最多の症例実績があるほか、数多くの症例実績を持ち、移植臓器の生着率については国内最多となっています。

さらに、2020年には集中治療科に11台のECMOが導入され、重症患者さんの治療だけでなく、移植手術にも機能を発揮しています。ECMO離脱後も引き続き当院での治療ができる体制が整っており、「命を未来につなぐ」医療が提供できる点も、大きな特徴であり強みでもあります。また、これ以外にも、最先端医療を提供するための、さまざまな医療機器が充実。日本に唯一の「スマート治療室」のハイパーモデルを有するほか、手術支援ロボットも3台が稼働しています。



日本で唯一のスマート手術室「HyperSCOT」

入退院支援

全国から集まる患者さんをスムーズに受け入れ、また地域の生活に戻れるよう密な連携を行う。

医療連携・入退院支援部の多職種スタッフが、患者さんやご家族、地域の医療機関に対し、診療・通院・リハビリ・介護に伴うさまざまな相談に応じています。入院治療を必要とする患者さんに対しては、不安なく治療を受け退院ができるよう、外来に入退院支援センターも開設。入退院支援看護師、手術室看護師、薬剤師、栄養士、事務スタッフが常駐しており、入院予約や面談、手術のオリエンテーションなどを担当。入院前に看護師がスクリーニングを行うことで、退院準備に早期から取り組むことができます。

退院に際しては、病棟に1名ずつ配属されている入退院支援リンクナースと、医療連携・入退院支援部の退院調整看護師が連携をして、地域包括支援センターやケアマネジャー、訪問診療医、訪問看護ステーションなどと調整を行っています。また、退院後も当院の外来に通院される方が多いため、外来の各診療科とも情報共有を密にするなど、院内連携にも力を発揮。都内全域はもちろん、全国各地からの患者さんの退院後の療養生活を支えるため、きめ細やかな連携を心がけています。



認定看護師による心不全患者への指導



入退院支援・多職種カンファレンス

HOSPITAL TOPIC

看護の専門性を活かした看護専門外来・助産外来。患者さんの生活に近い目線で在宅生活を支える。

多くの専門看護師や認定看護師、院内認定看護師が活躍する当院では、その専門性を活かして患者さんのさまざまな相談支援を行う、看護外来にも力を入れています。現在、皮膚・排泄ケア外来やがん看護外来をはじめとする11の看護専門外来と、助産外来が設置されています。診療時間よりもゆっくりと患者さんと向き合い、治療を続けながらの生活や、自宅でのセルフケアの方法、心理面などについての相談支援を行えるため、看護師にとっても、より専門性を発揮できる場になっています。また、院内の関連診療科や、地域の医療職からの相談、教育・指導にも対応し、医療連携にも寄与しています。



患者が安全に安心して治療を受けられるよう、ハイリスク症例検討会を行います。



「ハイリスク症例」の手術や治療に対して、患者に関わる多職種と一緒に検討を行う会議です。重症例の治療等、当該診療科や関連診療科等が必要と判断した場合や、術前の受診により麻酔科医師が必要と判断した場合に開催します。医療安全推進部が中心となり、病院長、麻酔科をはじめ医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士、理学療法士等、多角的な視点で意見を出し合い、患者が安全・安心して手術を受けられることや治療を選択できるよう検討しています。

看護師に聞く Q&A

Q. なぜ診療看護師を目指したのですか。

A. 手術看護認定看護師の資格を取得して10年経った頃、プラスアルファの知識や技術を修得することで、手術を受ける患者さんの安全をより向上できないかと考えたのがきっかけです。自分の中でもう一步ステップアップしたいという思いもありました。

Q. 現在の活動や役割について教えてください。

A. 手術室に所属しながら心臓血管外科に出向し、手術を受ける方を入院から退院直前まで継続して担当しています。手術室内だけではなく関わりができるので、患者さんも安心ですし、私も勉強になっています。また、診療看護師として医師に代ってできる業務を任せられたり、医師との調整を依頼されたりと、スムーズな診療の一助になっていると感じます。

Q. 女子医科大学病院の魅力は、どんなところですか？

A. 重症度が高く他の病院では治療が難しい方や、さまざまな背景の患者さんも多く入院されています。厳しい状況でも専門医と看護のスペシャリスト、多職種のチームで力をあわせて乗り越えることができるのは、当院ならではの強みだと思います。専門看護師、認定看護師、院内のエキスパートナースと働くことで、自分の学びにもなる点も大きな魅力です。

Q. 今後の目標について教えてください。

A. 診療看護師になってまだ2年目。周りを見渡しても、大先輩に比べるとまだまだ開かれ始めたところです。後進が歩ける道を切り開いていくことが、自分の使命でもあり皆のための目標だと思っています。



診療看護師 荒木田 真子

地域包括ケアの一翼を担う高度急性期医療の新拠点で 多様なニーズに応える「看護のジェネラリスト」に。



足立医療 センター

東京都の北東部に位置する足立医療センターは、地域に密着した高度急性期医療の提供に尽力しています。特に期待される三次救急、周産期医療、がん診療、災害拠点中核病院という役割を担っていくには幅広い知識と技術、そして看護の心を大切にされた看護のジェネラリストは欠かせません。新病院でも東京下町の皆さまに「足立医療センターがあるから安心」と言っていただける看護実践を重ねていきます。

足立医療センターの特徴

24時間三次救急対応

地域周産期母子医療センター

地域連携



ハイブリッドERでの治療



ICUでの患者さんへの声掛け



訪問看護との連携カンファレンス



車内でオペができるNBC災害対応救急車

MFICUも併設。出生前から成長・発達まで 切れ目のない高度な医療を提供。



新設されたMFICUと、これまででも新生児医療に貢献してきたNICUは、主に足立区と荒川区の患者さんを受け入れる地域周産期母子医療センターとしての役割を果たしています。MFICUではハイリスクの母体と胎児の集中治療を行うほか、NICUにおいては早産児や低出生体重児だけでなく、さまざまな疾患を持つ新生児の集中治療、高度な新生児救命医療を行っています。特に呼吸器疾患に関しては、全国各地から患者さんが治療を受けに来られるほどの実績があります。新生児が表情などで伝えてくれるさまざまなサインを読み取りながら、個性のある看護を心がけると同時に、日々の看護を通して新生児の成長・発達と親子関係の形成を大切にしています。



助産師による新生児の沐浴



小児在宅酸素療法の退院支援

年間1,500件を受け入れる救命救急センター。

救命救急センターは、ハイブリッドERと20床のICUなどの設備を擁するほか、新病院ではさらにヘリポートも設置され、より救急患者さんの受け入れ体制が充実しました。消防庁からのホットラインによる三次救急に対応し、年間1,500人以上の患者さんを24時間体制で受け入れています。ここでの看護は固定チームナーシングと継続受け持ち方式を採用。一人ひとりの看護師が担当患者さんを

受け持ちながら、看護方針や問題点についてはチームで話し合い共有していきます。災害医療に興味のあるスタッフも多く、自主的に勉強会を開いて学びあったり、東京DMAT(災害医療派遣チーム)や日本DMATにも参加するなど、自己研鑽していく風土です。診療看護師(NP)、救急看護の認定看護師も数多く活動しています。



DMATの訓練

HOSPITAL TOPIC

新病院移転でさらに機能が充実。 退院支援・地域連携にも力をいれています。

2022年1月、新病院への移転に伴い「足立医療センター」として引き続き、東京都の北東部の高度急性期医療を担っています。医療圏で唯一の三次救急に対応する医療機関として、救命救急センターの機能をさらに強化。また、急性期治療後、患者さんが地域での暮らしを継続できるよう、在宅医療や介護事業所の方々とも連携を深めています。自然災害も目立つ昨今においては、地域災害拠点中核病院としての役割にも大きな期待が寄せられており、勉強会や訓練を重ねています。看護師にとっては、配属先にかかわらず高度急性期医療を学びながら成長できる場です。



水陸両用車による訓練

85周年記念感謝祭を開催し 地域との深いつながりを再確認。

これまで「東医療センター」として87年間、東京都荒川区にて地域医療支援病院としての役割を担ってきました。三世代にわたり当院での出産を経験されたご家族もいるなど、地域との結びつきの強い病院です。隣の足立区への移転が決定した後、2018年に地域への感謝の思いを込めて、85周年記念感謝祭を開催しました。当院医師による各種の健康講座、講師を招いての地域づくりの講演会、地域の有志によるコンサートなど、大変あたたかな会となりました。「足立医療センター」においても、看護の根底にある人間関係を大切に、より一層の信頼関係を構築していきます。



看護師に聞く Q&A

Q. 新しく移転した「足立医療センター」の救命救急センターの魅力を教えてください。

A. ハイブリッドERをはじめ、さまざまな設備が導入されたことで、より早く検査や治療が進められるようになりました。スタッフも皆やる気に満ちていて向上心があります。職種を超えたコミュニケーションもとてもスムーズ。目の前の患者さんのために、役割分担も明確に、お互いに助け合えるチーム力が魅力です。

Q. 救急看護のやりがいと、大切にしていることは？

A. 重症の状態でお会いした方が、呼吸器から離脱できたり、カテーテルがなくなったりと、回復される姿に接すると、「このために仕事をしているんだ」といつも感じます。患者さんのためにもっとできることはないかを考え、根拠のある看護を提供できるように、知識と技術を磨き続けることを大切にしています。

Q. 救急看護は1年目の看護師でもできますか？

A. 1年目から救命救急センターで働いている先輩も多いので、新人看護師の気持ちに共感したうえで、一緒に成長していく関係性が築けていると思います。もちろん1年目から重症の患者さんを担当するだけでなく、少しずつステップアップしていきます。その中で、一人ひとりの患者さんに比較的にじっくりと関わることができるため、患者さんからより多くのことを学べる環境でもあります。

Q. 救急看護を目指す後輩に一言。

A. 救命救急というと、特別なイメージを持たれる方も多いと思いますが、危機に瀕している人をケアする、看護の本質は変わりません。足立医療センターは、区内でもトップクラスの搬送件数。まず命を救って次に繋げる経験を、一緒に重ねていきませんか？



救命救急センター主任/救急看護認定看護師 赤池 麻奈美

周産期母子・小児医療を充実させた地域医療支援病院。 高度先端医療と心温まるケアの調和をはかります。

八千代医療 センター

総合周産期母子医療センター、千葉県でも数少ない小児救命救急センターなど地域と時代のニーズに応える中核病院です。急性期を担う高機能病院として、救命救急センター、SCU、がんセンターなど、高齢者医療まで幅広く学べます。地域完結型医療を目指し、地域と細やかな連携をしています。全職種でチーム医療に取り組み、明るく活気ある組織と働きやすく学びやすい環境も特長です。

八千代医療センターの特徴

総合周産期母子医療センター

24時間の三次救急対応

急性期に特化した地域完結型医療



助産師による母親と新生児への声掛け



NICU内での新生児のエコー検査の介助



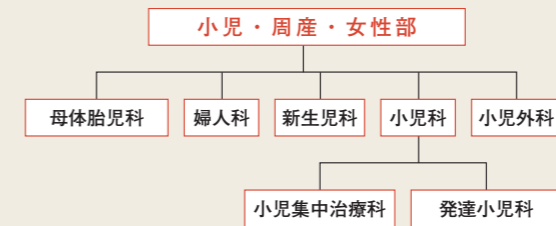
ICU内での記録業務



ドクターヘリ専用のヘリポート

千葉県に3つしかない 総合周産期母子医療センターのひとつを担います。

母性胎児科がMFICU(母体胎児集中治療室)6床、後方産科病棟40床、新生児科がNICU(新生児集中治療室)21床、GCU(後方新生児病棟)16床を持ち、八千代医療センターの総病床数501床のうち83床を占めています。分娩はLDR4室(ハイリスクLDR1室)を備え、産科麻酔医も常駐。2006年12月の開院以来、年間の救急母体搬送受け入れ数は約200件。正常妊娠・分娩からハイリスク、基礎から専門まで、周産期を幅広く経験し学べる環境です。



- 切迫早産、合併症妊娠等のハイリスク出産。
- 母体と胎児から新生児までの連続した医療管理MFICU6床、NICU21床、GCU16床。
- LDR室設置・アメニティー向上。
- 母子センター外来を病棟内に併設。



PICU内でレントゲン撮影前の準備



入院支援のためのカンファレンス



認定看護師と理学療法士による心臓リハビリ

地域連携

市民の方々が住み慣れた場所で安心して暮らしていくことができるように、地域との繋がりを大事にしています。

八千代市における医療や介護を医師会、訪問看護ステーション、ケアマネージャー、理学療法士、栄養士、薬剤師会、歯科医師会、特定非営利法人「やちけあ」等と連携しています。その一環として地域の医療従事者に向けた勉強会や研修会も開催しており、八千代医療センターも参加しています。市民の方々が病や障害をも

ちながらも住み慣れた場所で自分らしく、安心して生活していくことができるように、地域の各専門職が協働することで質の高い、温かいケアを提供し貢献することを目指しています。そのために、今後も地域医療支援病院として日頃から横の繋がりを大事にしています。

HOSPITAL TOPIC

患者さんが安心して入院治療を受けられるよう 入院前談話から退院後の調整を一貫して支援。

地域の中核病院として、医師会や地域包括支援センター、訪問看護ステーションなどと連携をとり、病院と地域が一体となって患者さんの退院後の療養生活を支えることに力を入れています。入退院支援部門では、専従の入退院支援看護師、医療ソーシャルワーカー、医療事務スタッフなどが協力して、入退院支援・地域連携を行います。入院前の患者さんの不安軽減やアセスメント、情報提供、病棟との連携、退院に向けての環境課題の解消、関係機関との調整に、一貫して同じ看護師が関わるところが当院の大きな特徴です。また、退院後も医療ケアを自宅でいながら療養生活を送る方も多いため、入退院支援看護師・病棟看護師による入院中から退院後を見据えた自宅訪問と退院後訪問を徐々に開始しており、さらに充実させていきます。



退院後訪問で患者さんに声かけ

JCI 認定病院として安全で 質の高い医療を提供してまいります。

当院は、国際的な医療施設認証機関であるJCI(Joint Commission International)の認定審査を受け、2020年2月22日付けで認定が認められました。JCIの審査内容は「国際患者安全目標」「ケア(麻酔・手術、薬剤、感染)」「品質改善」など14分野、1,199項目についてシステムや方針、手順、実践方法が基準を満たしているか4名の外国人専門審査官チームが来院し、院内ラウンドや職員へのヒアリングの上、厳正な審査が行われました。今後も安全で質の高い医療を提供するように全力で取り組んでいきます。



看護師に聞く Q&A

Q. 八千代医療センターの小児ユニットの特徴は？

A. 近隣に小児の入院できる施設が少ないため、東葛南部だけではなく、さらに広域から、入院の必要のある小児を受け入れる小児医療の重要な拠点です。当院の全501床のうち84床が小児の病床で、PICUもあります。2021年4月には、千葉県初の小児救命救急センターの指定も受けました。県内唯一の小児救命救急センターとして、三次救急までを受け入れています。

Q. 小児看護で大切にしていることは？

A. 一番は、子どもたちが入院前の生活に戻れるようにお手伝いをしていくこと。さらに、親御さんをはじめ多くの大人が関わりますから、家族ケアも含めて小児看護だと思っています。大変なことも多い分野ではありますが、自分も成長できる場です。

Q. 小児の地域連携はどのように行われますか？

A. 小児専門の専従入退院支援看護師が4名います。退院前に地域の訪問看護ステーションや子ども関連の施設の方との調整を行ったり、直接ご自宅を訪問し、医療的ケアをしながらの療養環境が整えられるかどうか確認・調整をしたりしています。退院時には一緒に家まで行き、退院後も1ヶ月以内に訪問を行っています。

Q. 小児ユニット全体の雰囲気について教えてください。

A. 規模が大きく医師数も多く、将来のある子どものために新しい知識や技術を身につけようという向上心が非常に高い環境です。常にさまざまな勉強会などが開催されています。職種を超えて意見を出し合うこともでき、人間関係もとてもいいので、私自身、小児看護に関わる上でこれ以上の環境があるだろうと思うくらいです。



PICU・小児外来看護師長 濱崎 志乃

地方出身の先輩看護師がたくさんいます。 女子医大では、暮らしとの両立も大切に考えています。

女子医大では、日本全国からさまざまな地域で、いろいろな学校で学んできた先輩たちが頑張っています。
「初めての職場」での出会い・学びは、長く看護の仕事をしていくうえで大変重要であり、今後のあなたを造っていくものです。
ひとりひとりの看護師が、自分らしい看護を実現できるよう、環境・生活面でも女子医大は全力で応援します。

看護師寮

生活の充実が得られる生活環境。

常に患者さんに安全で安心な看護を提供するためには、
看護師が日々平常心を保ち冷静な判断を行うことが重要です。
そうした平常心を支えるために病院では働きやすい職場環境と生活環境、
また気持ちをリフレッシュできる環境を整えています。



東京女子医科大学病院

建物：RC6階建て 部屋数：32室
設備：オートロック・エアコン・ユニットバス・トイレ
キッチン・洗濯機・冷蔵庫置場、クローゼット、
シューズボックス、バルコニー
寮費：42,000～51,000円/月
通勤：徒歩5～15分圏内
入寮条件：新卒者 入寮期間：最長5年

東京女子医科大学附属足立医療センター

建物：SRC8階建て 部屋数：40室(7・8階)
設備：カメラ付きインターホン、エアコン、証明、
IHコンロ、クローゼット、シューズボックス、バス・トイレ別、
洗面台、温水機能付便座、洗濯機置場、
宅配ボックス、バルコニー
寮費：40,000円/月
通勤：病院隣接
入寮期間：新卒者 入寮期間：最長5年

東京女子医科大学八千代医療センター

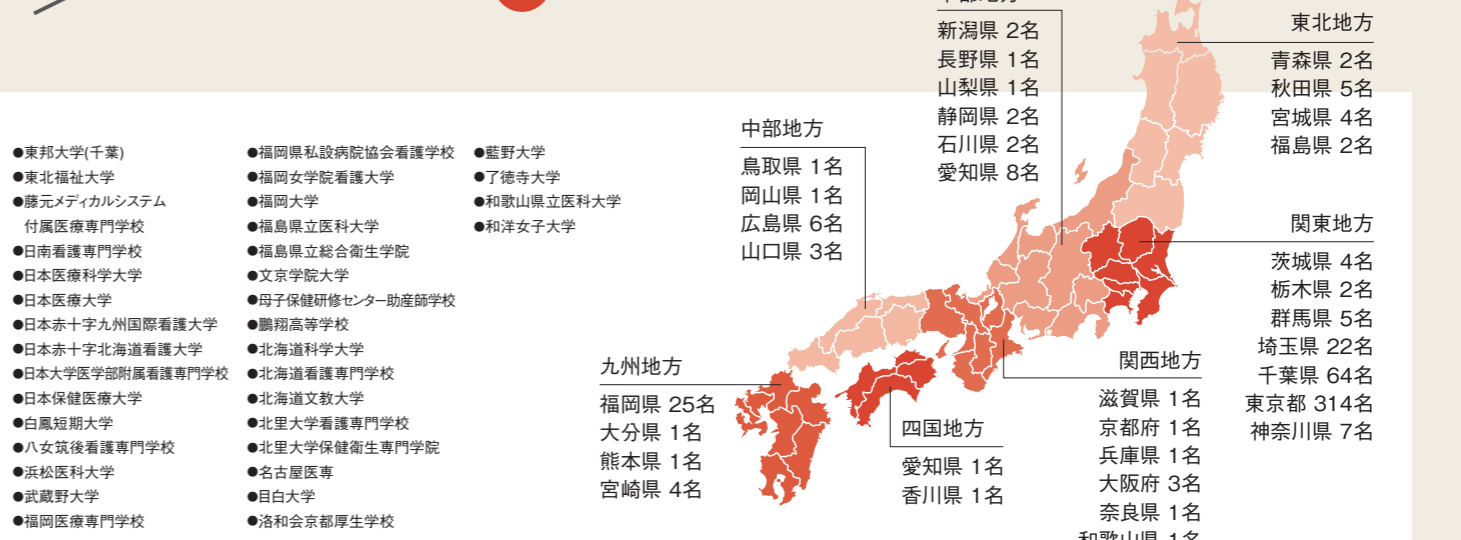
建物：RC3階建て 部屋数：24室
設備：オートロック、エアコン、証明、
クローゼット、シューズボックス、バス・トイレ別、洗面台、
温水機能付便座、洗濯機置場、バルコニー
寮費：18,000～28,000円/月
通勤：徒歩5～15分圏内
入寮期間：新卒者 入寮期間：最長5年



出身校一覧

※2021～2022年4月入職者卒業校

- | | | | | | | | |
|---|---|--|---|--|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ●あびこ助産師専門学校 ●ススキ病院附属助産学校 ●つくば国際大学 ●トヨタ看護専門学校 ●愛国高等学校 ●愛知医科大学 ●愛知県立大学 ●英会柏看護専門学校 ●茨城県さぬ看護専門学校 ●宇部フロンティア大学 ●遠賀中央看護助産学校 ●横浜国立大学 ●横浜創英大学 ●岡崎市立看護専門学校 ●関西看護医療大学 ●亀田医療技術専門学校 | <ul style="list-style-type: none"> ●宮崎大学 ●宮城県白石高等学校 ●共立女子大学 ●桐生大学 ●桐生短期大学 ●勤医協札幌看護専門学校 ●近畿大学附属福岡高等学校 ●九州看護福祉大学 ●群馬県立県民健康科学大学 ●群馬大学 ●慶應義塾大学 ●県立愛知看護専門学校 ●幸手看護専門学校 ●広島国際大学 ●広島都市学園大学 | <ul style="list-style-type: none"> ●弘前学院大学 ●江戸川看護専門学校 ●甲府看護専門学校 ●国際医療福祉大学(千葉) ●国際医療福祉大学大学院 ●国立病院東京医療センター附属東が丘看護助産学校 ●今治看護専門学校 ●埼玉医科大学 ●埼玉医科大学短期大学 ●札幌医科大学 ●札幌市立大学 ●三草会札幌看護専門学校 ●山陽学園大学 ●四国こどもとわたの医療センター附属看護専門学校 ●松蔭大学 | <ul style="list-style-type: none"> ●四條畷看護専門学校 ●市原看護専門学校 ●滋賀県立大学 ●自治医科大学 ●首都医校 ●秀明大学 ●秋田看護福祉大学 ●秋田県立衛生看護学院 ●秋田市医師会立秋田看護学校 ●埼玉医科大学 ●淑徳大学 ●純真学園大学 ●小樽看護専門学校 ●昭和学園高等学校 ●昭和大学医学部附属看護専門学校 ●松蔭大学 | <ul style="list-style-type: none"> ●上智大学 ●常葉大学 ●新潟医療福祉大学 ●神奈川県衛生看護専門学校 ●神奈川工科大学 ●神奈川歯科大学短期大学 ●人間総合科学大学 ●諏訪中央病院看護専門学校 ●相山女子学園大学 ●聖マリア学院大学 ●聖徳大学 ●西南看護専門学校 ●西南学院大学 ●西武文理大学 ●青森県立黒石高等学校 ●石川県立総合看護専門学校 | <ul style="list-style-type: none"> ●帝京大学 ●帝京平成大学 ●東京医科大学霞ヶ浦看護専門学校 ●東京医療保健大学 ●東京医療保健大学大学院 ●東京警察病院看護専門学校 ●東京情報大学 ●東京都立荏原看護専門学校 ●東京都立大学 ●東京都立北多摩看護専門学校 ●東京福祉大学 ●東京墨田看護専門学校 ●東京有明医療大学 ●東都大学 | <ul style="list-style-type: none"> ●東邦大学(千葉) ●東北福祉大学 ●藤元メディカルシステム付属医療専門学校 ●日南看護専門学校 ●福島県立総合衛生学院 ●文京学院大学 ●母子保健研修センター助産師学校 ●北道看護専門学校 ●北海道科学大学 ●北海道看護専門学校 ●北海道文教大学 ●北里大学看護専門学校 ●北里大学保健衛生専門学校 ●名古屋医専 ●白目大学 ●洛和会京都厚生学校 | <ul style="list-style-type: none"> ●藍野大学 ●了徳寺大学 ●和歌山県立医科大学 ●和洋女子大学 |
|---|---|--|---|--|---|---|--|



東京女子医科大学

Tokyo
Women's
Medical
University